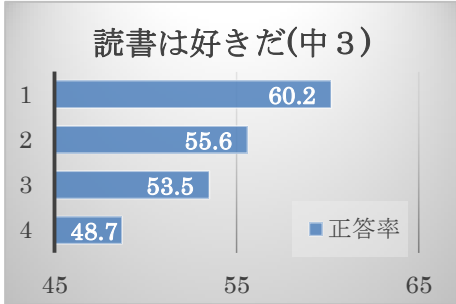
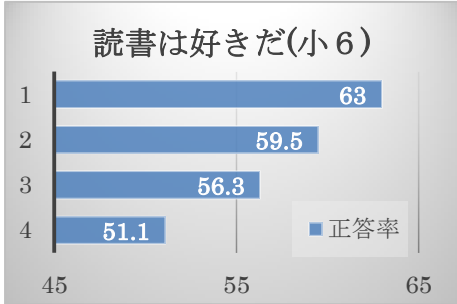


## 読書と学校図書館の活用について

読書はいろいろな情報を得たり、人格形成を行ったり、読解力や思考力、表現力、想像力、感受性、言語の発達などを促したりすると言われています。また、本が好きな児童生徒は学力が高く、学習内容の理解につながっているとも言われています。全国学力・学習状況調査のクロス集計(H25年度 西部地区)で読書と正答率の関係を示したグラフを見てみましょう。

**意識調査問題**  
◆「読書は好きですか」  
1 当てはまる  
2 どちらかといえば当てはまる  
3 どちらかといえば当てはまらない  
4 全く当てはまらない



小学6年生と中学3年生の児童生徒の読書に対する選択肢別に集計された平均正答率からは次のようなことが言えます。《読書好きの方が、全国調査の正答率は高くなっている。つまり読書を好む児童生徒は学力が高い!》

他のクロス集計からは、《読書をする子どもが学力は高いが、読書をする時間の長さが正答率に比例しているとは言えない》という結果が見られるものの、読書と学力には関係があると言えそうですね。

しかし、児童生徒に読書が定着しているかという点、必ずしもそうではないようです。そこで、これからの読書には、読み慣れて広げていく読書習慣の定着とともに目的に応じた質の高い読書に目を向ける必要があります。そのために、学校図書館の活用も一つの方法ではないでしょうか。

### 西部管内にみる学校図書館の活用術!

※下のような学校図書館活用例が考えられます。

◀「読書センター」としての図書館▶

- 読書の本、学年ごとの必読図書紹介
- 読書への興味が広がる館内ディスプレイ

◀「学習・情報センター」としての図書館▶

- 調べ学習の成果、調べ学習の手順
- 豊かな学習を支える資料

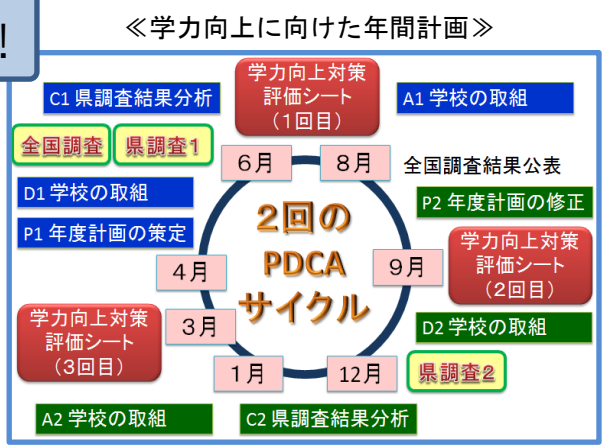
◀居場所としての図書館▶

- ゆったりとしたくつろげるスペース

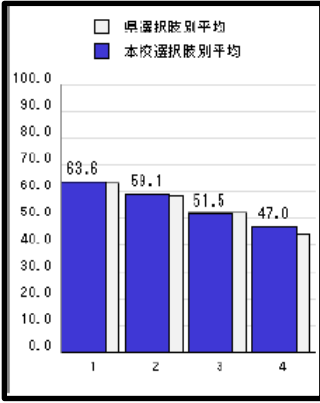
### 【学力向上対策評価シート】で確認しましょう!

5月に西部教育事務所管内学力向上対策コーディネータ研修会を開催しました。その中で、学力向上に向けての年間の見通しと学力向上対策評価シートの活用について説明をしました。

各学校では、全国学力・学習状況調査や佐賀県小・中学校学習状況調査の結果を受けて、課題改善に向けた具体的な取組について共通理解するための研修が行われたところだと思います。学力向上対策評価シートを有効に活用し、ぜひ全職員で力を合わせて課題改善に向けた取組を実践してください。



# シリーズ！学力向上のための手びき「つかむ」編



西部型授業の「つかむ」段階のポイントは、大きく2つです。

①「学習への意欲をもつ」②「学習のめあてをつかむ」です。特に、「学習のめあてをつかむ」ことは、授業の内容を理解する上で、非常に大切です。

左のグラフは、平成25年度 全国学力・学習状況調査の意識問題（小学6年生）

「普通の授業では、はじめに授業の目標(めあて・ねらい)が示されていると思う」

【1あてはまる 2どちらかといえば、あてはまる 3どちらかといえば、あてはまらない 4あてはまらない】と学力をクロス集計したものです。

【1あてはまる】と答えた児童の平均正答率は63.6で、【4あてはまらない】と答えた児童の平均正答率は47.0です。その差は16.6もの開きがあります。先生はクラス全員に同じようにめあてを提示されたはずですが、

にもかかわらず、このような結果になったのは、児童生徒にめあてを強く意識させることができていないからではないでしょうか。

「学習のめあて」は、学習のめざす方向性を示し、解決する必要感を感じさせて児童生徒の追究意欲をかき立てるために、とても重要なものですね。

## こんな工夫をして、めあてを明確に！

### ①学習への意欲をもつ

- ★「なぜかな」「調べてみたいな」と子どもたちが感じるような課題の提示
- ★課題をイメージしやすくするための具体物の提示やICT機器の活用



ICT機器を活用した提示



絵や写真を活用した提示

### 「めあて」のポイント

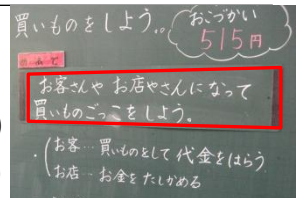
- 学習内容の見通しがもてる
- 学習活動の目的や視点がわかる
- まとめにつながる

など、主体的に学習に取り組むようなめあてを設定しましょう！



### ②学習のめあてをつかむ

- ★焦点化(「これだけは必ずできるようにさせる」めあて)
- ★具体化(本時のゴールがイメージできるわかりやすい言葉)
- ★視覚化・音声化(めあての板書・めあての内容理解を促す)



## 子どもたちをくぎづけにする板書の技を！

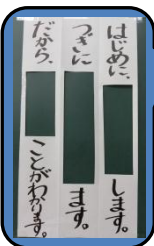
わかりやすい板書は、授業をスムーズに展開する上でとても大切です。文部科学省のホームページに掲載されている、生徒(中学生対象)の望む板書を見てみると…

- ▲続け字、大きさ…読みやすい字で書いてほしい
- ▲まとめ方…要点をまとめて整理してほしい
- ▲消し方…書いてもすぐ消さないでほしい



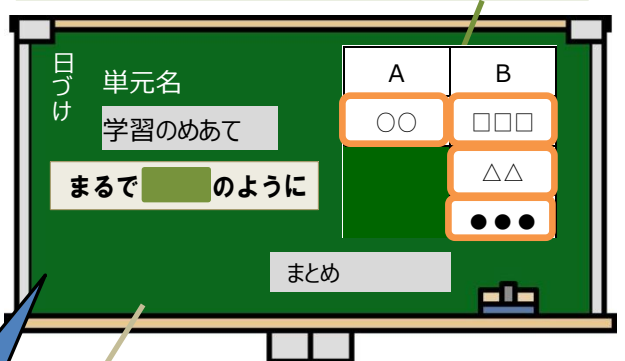
他にも、板書の位置、チョークの色や濃さ、速さについて希望があったそうです。板書の教育的効果を上げるためにも、児童生徒の立場に立って板書計画を立てることが大切です。学習意欲を高め、学習内容を共有できる、板書を工夫していきましょう。

挿絵やキャラクター、指人形などの登場も黒板に集中させる手立ての一つですね！



### 名前や出席番号のマグネット式フレートを活用する

○理科の実験の結果予想や算数の解法、道徳の自分の思いなど、子どもたち全員に意思表示をさせることができ、また、クラスの傾向も一目でわかります。



### ホワイトボードや小黒板等に板書させる

○ホワイトボードや小・短冊黒板を活用し、穴あきの部分に自分の考えを書かせたり説明させたりすることで、授業が活性化し、集中力を持続させるとともに積極的に考える力を育みます。